

# 社会科歴史的分野における小・中・高の関連

—— 学習内容の精選をめざして ——

石 野 武 志

## 1. はじめに

従来我々は、中学校三分野の関連といういわば「横」の関係を追求する場面が多かった。これに対して、同じ社会科において小・中・高の関連、「縦」の関係はどうであろうか。今年度は歴史的分野を取り上げた。

## 2. 学習指導要領における小・中・高の関連

現行学習指導要領の特色の1つは、小・中・高の一貫性、関連性を強調していることである。歴史的分野についてみると、小学校では、

「第6学年の歴史的学习については、各時代についての歴史的事項を網羅的に取り扱うことを改め、我が国の伝統を尊重する立場から、歴史上の人物の働きや文化遺産などを重点的に取り上げ、現在の自分たちの生活の歴史的背景に関心をもたせ、歴史と伝統を大切にする心情を育てるようにする。」中学校では、

「日本の歴史の流れを中心として、日本人の生活の展開を政治や社会の動きとの関連のもとに学習させるようにする。」

高等学校の歴史学習では「日本史」と「世界史」が選択科目となっているが、小・中・高の内容関連では特に「日本史」が関係深いのでこれに限って触れてみると、

「……日本の文化の創造、発展、伝播、影響などを当時の社会との関連のもとに総合的に考察する学習が一層充実できるように内容の構成に工夫を加える。……」

すなわち、小・中・高の歴史学習は、

- ①小学校では人物、文化遺産中心の学習
- ②中学校では日本の歴史を中心とした通史学習
- ③高等学校では日本の文化の総合的学習

というように、児童・生徒の発達段階と学習能力に即して、それぞれ重点を異にし、しかも歴史学習の継続という観点から効果のある学習が展開できるように配慮されている。

## 3. 研究のねらいとおもな内容

我々中学校において学習内容の精選をめざし、基礎的・基本的事項をおさえる上で、小及び高での学習に関して、その目標や内容に精通しておくことはきわめて大切である。また、中学校で

の日々の学習を展開していく上で、小での学習を想起させ、これを有効に活用することにより、無駄な重複を避けることができ、より能率的でより効果のあがる学習が期待できる。更に高での学習内容を調べることに、中学校での学習の程度を考慮することができる。

以上の判断から、

- (1) 歴史的分野における同単元（同題材）の学習が小・中・高でそれぞれどのように展開されているか、各々の使用教科書を手がかりにそれぞれの学習内容を洗い出し、重要事項（基本事項）を中心に単元別の関連表を作成する。
- (2) 重要事項（基本事項）の定着度を調べるため、小・中・高、同一内容で定着度テスト（含アンケート）を実施し、分析を試みる。

#### 4. 歴史的分野における小・中・高学習内容関連表について

- (1) 使用教科書
  - ・小学校 「人間のあゆみ」 6－上 中教出版
  - ・中学校 「日本の歩みと世界」 中教出版
  - ・高等学校「日 本 史」 山川出版
- (2) ㊥ 石川社発行の中学校社会科資料“指導内容の精選”より歴史的分野を抜粋し、掲載、更に人名など一部追加し作成
- ㊦ 上記教科書本文で扱われている年号、重要事項と思われるもの、人名を㊥の各単元に合わせて記入
- ㊧ 上記教科書本文で扱われている重要事項と思われるもののうち、㊦及び㊥までに登場しない事項・人名を㊧の各単元に合わせて記入
- ※ なお、文化関係の人名、作品名等については紙面の都合で“→おもな美術作品”などの表現をし、個々の作品名や作者名は省略した。

#### 《資料2「歴史的分野における小・中・高学習内容関連表」参照》

それぞれ1冊ずつの教科書だけで調べてみたわけであるが、他社の教科書で取り上げられる事項や人物、また、同じ事項でもその取り扱い方に相当なちがいがみられることは当然であろう。更に、毎日の実際の授業ともなると、教科書は同じであっても、授業担当者によるちがいはきわめて大きいといわねばならない。同単元、同題材について、小学校で何を取り上げ、どの程度に扱っているのか。高等学校では更にそれがどの程度詳しく細くなり、どのような考察が展開されるのか。この関連表はあくまでもこれらを知る1つの手掛かり、一応の目安として作成してみたものである。

小学校での学習が想像以上に詳しく、細かい部分にまで及んでいることに改めて感心させられる。したがって、中学校、高等学校との間にかなりの重複がみられることも事実である。はたしてこれらがどの程度定着しているものなのか、定着しやすいものと、しにくいものにはどのようなちがいがみられるのであろうか、改めて気になるところである。

このようなところから、次の定着度テストを実施してみることにした。

## 5. 歴史定着度テストについて

### (1) ねらい

- ①基本的事項を小学校の教科書の内容から50問選び定着度を調べる。
- ②内容別、事項別定着度及び誤りやすい傾向を知る。
- ③学校種（小・中・高）による定着度の差及びその傾向を知る。

### (2) 調査内容 （資料1 参照） ㉔誤答率平均

I. 1 ～ 5	： 事件や戦い	(26.6%)
6 ～ 10	： 歴史の人名	(21.1%)
11 ～ 15	： 文化的事物	(17.1%)
16 ～ 20	： 政治上の法令・社会的な運動	(31.2%)
21 ～ 25	： 産業経済的な動き・土地制度	(35.2%)
26 ～ 30	： 対外関係	(20.9%)
II. 時 代		(29.8%)
III. 世 紀		(40.5%)
IV. 年 号		(35.6%)
V. 歴史的地名		(35.6%)
VI. アンケート	1. 日本の歴史上の好きな人物とその理由	
	2. “ ” えらいと思う人物とその理由	
	3. 学習したい時代とその理由	
	4. 行ってみたい時代とその理由	

### (3) 調査対象

- ・小学校：付小6年生3クラス108名：各クラス共調査直前に歴史の部分の学習が終了
  - ・中学校：本校3年生4クラス168名：並行学習のため第2学年で歴史的分野の学習終了
  - ・高等学校：付高2年生
    - 高一A：高等学校で日本史を選択していないグループ 34名
    - 高一B： “ ” 日本史を選択しているグループ 93名
- （第2、第3学年2年間で日本史を履修予定のため、調査時点では室町時代までの学習が終了）

### (4) 調査時期

昭和58年1月下旬 ～ 2月上旬

### (5) 結果の集計とその考察 （表－1 ～ 表－5 参照）

#### A. 調査Ⅰについて

表－1は重要事項と人名を取り上げた㉔－Ⅰを集計したものであるが、まず全体的にみると、やはり高校入試を直前にした㉔が最もよい結果を出している。次の表－2でこれがもっとはっきり表われてくるようである。このことはむしろ受験のための学習の成果としてとらえるべきものであろう。また、調査内容の観点別では、文学作品などの文化的事物や人名の誤答率が比較的低く、産業経済的な用語や土地制度、政治上の法令や社会的な運動などに関するものが高くなっている。（上の「調査内容」の項の誤答率平均参照）

## 資料 1

### 歴史（日本の歴史）定着度テスト

I 次の説明文にあなたはまることばや人名を答えなさい。

1. 京都を中心に11年間も続き、以後戦国時代となった。
2. 17世紀、九州でおきたキリシタンを中心とする農民の一揆。
3. 西郷隆盛をおしたて、鹿児島の上族たちがおこした反乱。
4. 19世紀末、わが国が朝鮮の支配をめぐり中国と争った戦争。
5. 犬養首相が暗殺され、この事件により政党政治がおわった。
6. たびたびの失敗で失明しながらも来日した唐の高僧。
7. 倒幕に失敗し隠岐に流されたが、のち吉野に南朝をたてた。
8. 参勤交代などのきまりを定め、幕府の基礎を固めた。
9. 前野良沢らと「解体新書」を出版した。
10. ヨーロッパの憲法や政治を勉強して帰り、初代総理大臣になった。
11. 聖武天皇の愛用品などをおさめた校倉造の宝物倉庫。
12. 紫式部が書いた世界的な長編小説。
13. 室町時代にあらわれた現代の和風建築のもとになった建築様式。
14. 江戸時代の人々の生活や風景をえがいた版画。
15. 福沢諭吉の「天は人の上に人をつくらず・・・」ではじまる本。
16. 聖徳太子のだした朝廷に仕える役人の心がまえを示したもの。
17. 北条氏が定めた最初の武士の守るべき法律。
18. 17世紀中頃の田畑の売買禁止など農民に対するこまかなきまり。
19. 幕末ころの、朝廷をもちたて、外国人を打ち払えとする運動。
20. 役人だけでなく、国会を開き人民の意見によって政治を行えという運動。
21. 力のある貴族や寺は農民を集め土地を開き、どんどん自分のものにした。
22. 秀吉は田畑の広さや耕作する農民を定め、年貢のとり立てを確実にした。
23. 幕府や大名が年貢米や特産物を保管し販売した倉庫。
24. 米でおさめていた税を現金でおさめさせ、財政のもとを固めた。
25. 小作人が自分の土地をもつようになり、農村の民主化が進んだ。
26. 朝廷の使節として小野妹子が中国へ派遣された。
27. モンゴル軍が2度にわたって九州北部にせめよせた。
28. 南北朝のころ、朝鮮半島や中国沿岸をあらしまわった日本の海賊。
29. 戦国のころから江戸初期の幕府などから許可を受けた貿易船。
30. 19世紀頃、ペリーと幕府との間で結ばれた条約。

II 次のことがらは下のどの時代のことか、記号で答えなさい。

1. 法隆寺が建てられた。
2. 「古事記」がつくられた。
3. コロンブスが新大陸を発見した。
4. フランス革命がおこった。

5. 米騒動がおこった。

- a、飛鳥      b、奈良      c、平安      d、鎌倉      e、室町      f、安土・桃山  
g、江戸      h、明治      i、大正      j、昭和

III 次のことがらは何世紀のことですか。(数字を記入する)

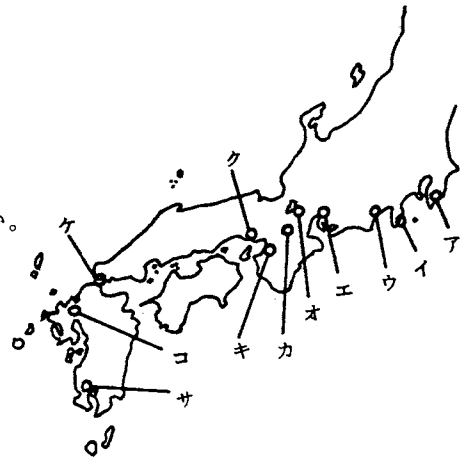
1. 大和朝廷が国土の統一をした。
2. 関ヶ原の戦がおきた。
3. 江戸幕府がたおれた。
4. 東大寺大仏がつくられた。
5. 平清盛が政権をにぎった。

IV 次のことがらはいつのことか、西暦の年号で答えなさい。

1. 大化の改新がおこなわれた。
2. 大日本帝国憲法が發布された。
3. 京都に都を移した。
4. サンフランシスコ講和条約が結ばれた。
5. 源頼朝が鎌倉に幕府をひらいた。

V 次の地名は地図のどこか、記号で答えなさい。

1. 登呂      2. 山城      3. 壇の浦
4. 安土      5. 下田



VI アンケート

1. 日本の歴史上の人物の中で好きな人物を1人あげ、理由もかんたんに書いて下さい。
2. 日本の歴史上の人物の中でえらいと思う人物を1人あげ、理由もかんたんに書いて下さい。
3. 上のIIのa～iの時代のうち、学習するとして一番興味のある時代はどれか。その理由もかんたんに書いて下さい。
4. もし行けるとしたらどの時代へ行ってみたいか、そこで何をしたいかかんたんに書いて下さい。

表－1

定着度テスト集計（1）

●誤答率40%以上 ○誤答率10%未満

I	正 解	誤 答 率					誤 答 例
		小 (108人)	中 (168人)	高一A (34人)	高一B (93人)	平 均	
1	応 仁 の 乱	22.2	25.0	●44.1	32.3	30.9	承久の乱、建武の新政、南北朝
2	島 原 の 乱	○ 5.6	14.3	17.6	17.2	13.7	一向一揆
3	西 南 戦 争	28.7	13.7	○ 8.8	21.5	18.2	戊辰の役、明治戦争、倒幕
4	日 清 戦 争	15.7	16.7	26.5	28.0	21.7	日中戦争、日華事変、満州事変
5	五・一五事件	●64.8	20.2	●55.9	●52.7	●48.4	2.26事件、桜田門外の変、5.65事件
6	鑑 真	○ 8.3	○ 4.8	○ 5.9	○ 0	○ 4.8	⑤観、臣など
7	後醍醐天皇	●52.8	29.8	●52.9	26.9	●40.6	足利尊氏、後鳥羽上皇、後白河上皇
8	徳 川 家 光	38.0	26.8	29.4	35.5	32.4	家康、吉宗
9	杉 田 玄 白	16.7	20.2	14.7	17.2	17.2	新井白石、本居宣長、高野長英
10	伊 藤 博 文	21.3	○ 6.5	○ 8.8	○ 5.1	10.4	原敬、岩倉具視
11	正 倉 院	○ 7.4	○ 1.2	○ 2.9	○ 1.1	○ 3.2	平等院
12	源 氏 物 語	○ 9.3	○ 7.7	○ 0	○ 1.1	○ 4.5	枕草子、平家物語、竹取物語
13	書 院 造	28.7	16.7	32.4	21.5	24.8	寝殿造、金閣、銀閣、唐様
14	浮 世 絵	27.8	29.8	●41.2	36.6	33.9	⑤浮世草子、水墨画、似絵
15	学問ノススメ	34.3	19.6	○ 8.8	12.9	18.9	⑤
16	十七条の憲法	○ 9.3	○ 4.8	20.6	○ 3.2	○ 9.5	冠位十二階、大宝律令、十二条の…
17	御 成 敗 式 目	29.6	18.5	●41.2	10.8	25.0	武家諸法度⑤五、正、財※負
18	慶安の御触書	●51.9	26.2	●58.8	●48.4	●46.3	刀狩令、班田収授法、五榜の掲示
19	尊王攘夷運動	●63.9	●45.8	○ 8.8	36.6	38.8	外国船打払令、鎖国令⑤皇
20	自由民権運動	●40.7	20.8	●47.1	37.6	36.6	普通選挙運動、護憲運動
21	莊 園	13.9	11.3	11.8	○ 5.4	10.6	開墾 ⑤庄
22	太 閤 検 地	13.0	13.1	35.3	○ 9.7	17.8	⑤閤、陰
23	蔵 屋 敷	●92.6	29.2	●79.4	●41.9	●60.8	⑤米倉 ⑤倉
24	地 租 改 正	●72.2	29.2	●44.1	●49.5	●48.8	⑤ ⑤租、制
25	農 地 改 革	●63.0	29.2	20.6	38.7	37.9	地租改正、農政改革
26	遣 隋 使	24.1	○ 9.5	○ 2.9	11.8	12.1	遣唐使 ⑤遣、脩
27	元 寇	23.2	17.3	○ 2.9	○ 0	10.9	⑤冠、一
28	倭 寇	39.8	21.3	○ 0	8.6	17.4	⑤和、冠、一
29	朱 印 船	17.6	23.2	14.7	36.6	23.0	勘合船、南蛮船
30	日米和親条約	25.9	25.6	●61.8	●51.6	●41.2	日米修好通商条約 ⑤新
	平 均	32.1	19.3	26.7	23.3	25.4	

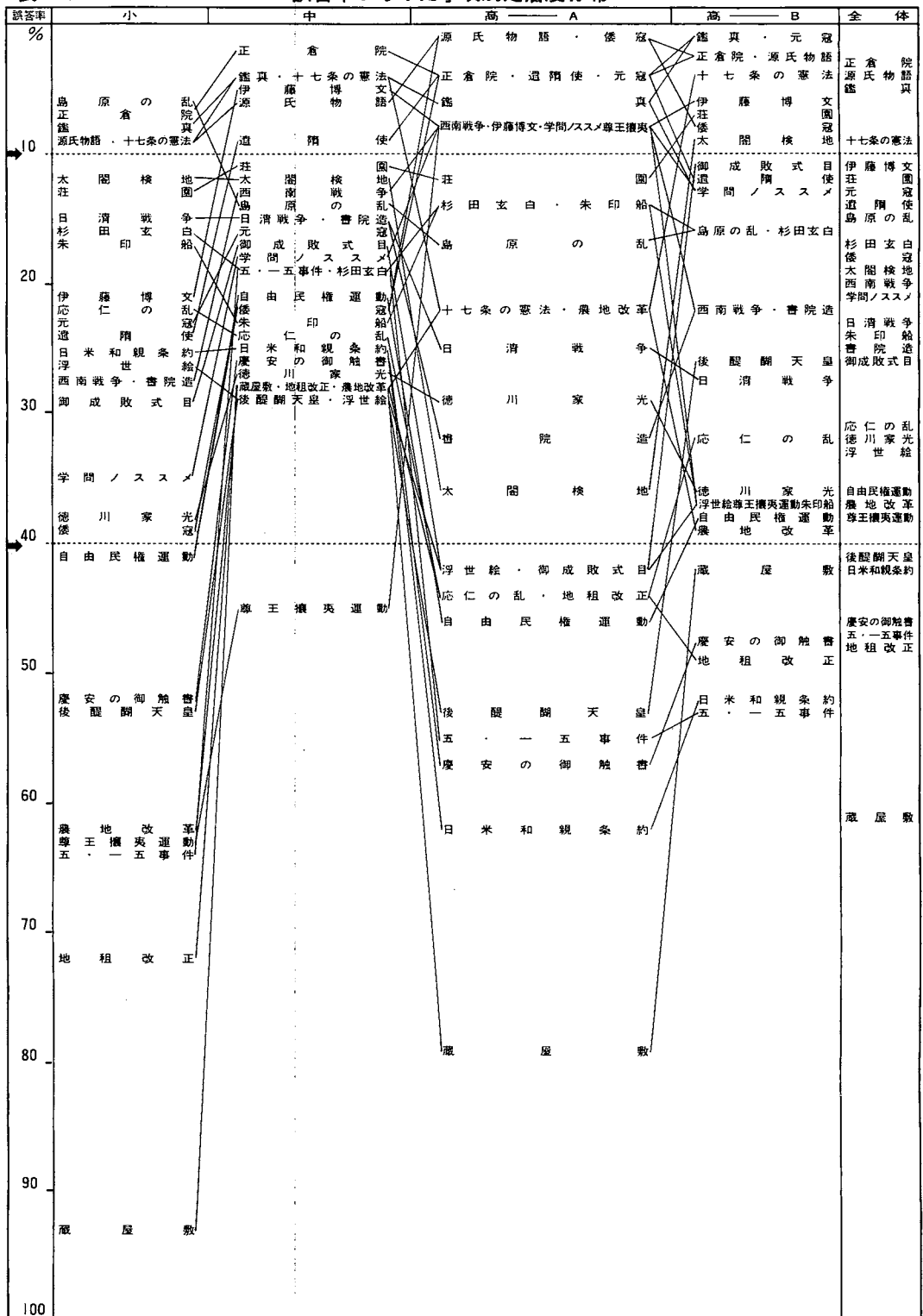
注 1. 数字はパーセント（無解答のものも含む）

2. 高一A 日本史非選択グループ 高一B 日本史選択グループ

3. 誤答例はそのうち比較的多かったものを示す ⑤は無解答が目立つもの  
⑤は漢字で誤りの多い例を示す

表-2

誤答率からみた事項別定着度分布



表－3

誤答率の高いものBest 10.

	小	中	高 — A	高 — B	全 体
1	蔵 屋 敷	尊王攘夷運動	蔵 屋 敷	五・一五事件	蔵 屋 敷
2	地 租 改 正	②後醍醐天皇	日米和親条約	日米和親条約	地 租 改 正
3	五・一五事件	②浮 世 絵	慶安の御触書	地 租 改 正	五・一五事件
4	尊王攘夷運動	④蔵 屋 敷	五・一五事件	慶安の御触書	慶安の御触書
5	農 地 改 革	④地 租 改 正	後醍醐天皇	蔵 屋 敷	日米和親条約
6	後醍醐天皇	④農 地 改 革	自由民権運動	農 地 改 革	後醍醐天皇
7	慶安の御触書	徳川家光	⑦地 租 改 正	自由民権運動	尊王攘夷運動
8	自由民権運動	慶安の御触書	⑦応 仁 の 乱	⑧浮 世 絵	農 地 改 革
9	倭 寇	日米和親条約	⑨浮 世 絵	⑧尊王攘夷運動	自由民権運動
10	徳川家光	応 仁 の 乱	⑨御成敗式目	⑧朱 印 船	浮 世 絵

誤答率の低いものBest 10.

	小	中	高 — A	高 — B	全 体
1	島 原 の 乱	正 倉 院	①源氏物語	①鑑 真	正 倉 院
2	正 倉 院	②鑑 真	①倭 寇	①元 寇	源氏物語
3	鑑 真	②十七条の憲法	③正 倉 院	③正 倉 院	鑑 真
4	④源氏物語	伊藤博文	③遣 隋 使	③源氏物語	十七条の憲法
5	④十七条の憲法	源氏物語	③元 寇	十七条の憲法	伊藤博文
6	莊 園	遣 隋 使	鑑 真	莊 園	莊 園
7	太閤検地	莊 園	⑦西南戦争	伊藤博文	元 寇
8	日清戦争	太閤検地	⑦伊藤博文	倭 寇	遣 隋 使
9	杉田玄白	西南戦争	⑦学問ノススメ	太閤検地	島 原 の 乱
10	朱 印 船	島 原 の 乱	⑦尊王攘夷運動	御成敗式目	杉 田 玄 白

注 ○印の中の数字は同順位を表わす。



表－２は、誤答率からみて各事項がどの程度定着しているか、また、同じ事項では小・中・高でどのような違いがみられるか、をみようとしたものである。

これの目安として、誤答率40%、すなわち平均して60%以上が正解であれば一応定着しているといえるのではないか、誤答率が10%未満、90%の者が正解しておればかなり定着度が高いとみてもよいのではないか、との判断をしてみた。

この表についての詳細な分析は省略するが、表－３に整理して全体の傾向を考察した。調査項目は調査内容に示した6つの観点から、時代の片寄りや難易度を考慮して各々5つずつの事項、人名を選択し出題したわけであるが、その取り上げた事項、人名そのものや、質問文が短文であり、その表現等に問題がないわけではないが、各項目毎の集計結果について若干考察を加えてみることとする。

・誤答率の高いもの（定着しにくいと考えられるもの）

①漢字に対する抵抗の大きいもの

※集計では少々の誤字は誤答扱いはしなかった

②なじみにくい難解なもの

③概念的で抽象度の高いもの

④類似のものがあまざらわしいもの

・誤答率の低いもの（比較的定着しやすいと考えられるもの）

①興味・関心の高いもの

②関連性の見出しやすいもの

③人物との結びつきの強いもの

④時代を代表したり、時代の節目となるもの

⑤学習頻度の多いもの

⑥他教科でも取り扱われているもの

※①との関係からⅥ 1・2の人物とも関連するが、NHKの大河ドラマその他テレビ等のマスコミの影響もかなり大きいのではないかと考えられる。

・小・中・高の比較

誤答率の高いものでは、小学校がほぼ全体のらんと同じ事項が上位を占めているのに対して、中学校では実際にはほんのわずかな差ではあるものの、「尊王攘夷運動」が最上位を占め、次いで「浮世絵」が「後醍醐天皇」と共に登場している。高等学校では、「五・一五事件」、「日米和親条約」といった、それぞれ「二・二六事件」、「日米修好通商条約」と迷いやすかった事項が上位に上っているのが特色である。学習事項が時間の経過と共にその定着度を失う一例ではないかと考えられる。

次に、誤答率の低いものでは、全体として親しみやすい「正倉院」「源氏物語」「鑑真」「十七条の憲法」が順位は多少異なるにしても、各校種共に上位を占める中で、小学校は「島原の乱」が最上位である。天草四郎時貞にまつわるエピソード等を取り入れた興味深い学習が、強烈な印象として残った好例であろう。中学校では、小学校で登場していない「伊藤博文」が4位を占めている。高等学校でもかなり上位を占めることからみて、生徒の発達段階と関連して考えることができはしないだろうか。この意味で、高等学校で「倭寇」、「元寇」がそれぞれの第1位、しか

も誤答率0、すなわち全員正解という結果が特徴的である。この2つの事項は小・中で登場していないどころか、「倭寇」は小学校で「誤答率の高いもの」にさえランクされている事項なのである。

#### B. 調査IIについて

時代を答えさせたIIは、III、IVに対して全体的にみて定着度は高いといえる。ただし、小と中・高の差が大きく表われているが、小学校教科書の巻末の折り込み年表にはあるものの、本文では直接取り扱われていない3「コロンブスの新大陸発見」と4「フランス革命」を参考に加えてみたことによるものと思われる。やはりここでも、なじみやすい「法隆寺」の誤答率はきわめて低く、逆に「米騒動」は全般的に高くなっているようである。

#### C. 調査IIIについて

事項を世紀で答えさせたIIIは、さきの調査内容のグループ別では最も高い誤答率を示している。教科書の記述では「世紀」で表現してはあるものの年代の漠然とした1「大和朝廷の国土統一」、5「平清盛」の誤答率がかなり高いことからみて、歴史の流れをずばり世紀でとらえることには抵抗があるものと考えられる。ただし、3「江戸幕府の滅亡」のような年代の明白なものは答えやすいようである。なお、2「関が原の合戦」の1600年を17世紀と答えた者が各校種共全体の約半数にも達していることが注目される。この点について我々は、何かの機会にはっきりとおさえておくべきであろう。

#### D. 調査IVについて

ある事項の年号を答えさせたIVでは、中と小・高の間に大きな差がみられる。先述した受験学習の成果としてははっきりととらえることができる。項目別では1「大化の改新」が学習順序としては最初に正式に登場する年号として定着度が高く、源頼朝とも関連して、時代の節目にもあたる5「鎌倉幕府」3「平安遷都」は誤答率が低く表われている。一方、2「大日本帝国憲法の発布」が翌年の「第1回帝国議会」と、4「サンフランシスコ講和条約」が「終戦」の年と勘違いしたこともさることながら、明治以後の近・現代の学習の内容が多く、また時間的制約から、この部分をついつい足早に通過しがちな現状にも反省が求められるように思う。この意味からも内容の精選をもっと真剣に考えてみる必要を感じるのである。

#### E. 調査Vについて

歴史的地名の位置を地図上で答えさせたVでは、全体的にみてまだまだ不十分の感が強いものの、小→中→高へと徐々に誤答率の低下がみられ、地理的分野の学習も合わせてその成果が表われているように思う。2「山城」にこの傾向がはっきりみられるのに対し、4「安土」は全く逆の結果になっている点が疑問に感じられる。やはり我々は歴史的地名を大切にし、日々の学習の場においても、常にこれを歴史地図などの上で確認していく習慣をつけさせる必要を痛感するのである。

#### F. アンケートVIについて

VI-1・2は歴史上の人物に関する調査である。2の「えらいと思う人物」の定義が不明確な

表-4

定着度テスト集計 (2)

● ○ 集計(1)に同じ

		正 解	小	中	高		平 均	誤 答 例
					A	B		

II	1	飛 鳥 時 代	11.1	16.7	14.7	11.8	13.6	奈良時代
	2	奈 良 時 代	38.0	29.2	23.5	19.4	27.5	平安時代
	3	室 町 時 代	●58.3	28.0	32.4	32.3	37.8	安土桃山時代
	4	江 戸 時 代	●43.5	21.0	17.6	20.4	25.6	明治時代
	5	大 正 時 代	●58.3	31.6	●44.1	●43.0	44.3	明治時代
		平 均	41.8	25.3	26.5	25.4	29.8	

III	1	4 世 紀	●53.7	●45.8	●70.6	●50.5	●55.2	5世紀
	2	16 世 紀	●59.3	●48.8	●50.0	●62.4	●55.1	※17世紀
	3	19 世 紀	30.6	19.1	14.7	17.2	20.4	18世紀
	4	8 世 紀	36.1	30.4	17.6	22.6	26.7	7世紀
	5	12 世 紀	●61.1	32.7	●47.1	38.7	●44.9	11世紀
		平 均	48.2	35.4	40.0	38.3	40.5	

IV	1	6 4 5 年	13.0	14.9	14.7	○ 7.5	12.5	
	2	1 8 8 9 年	●75.0	28.6	●52.9	●73.1	●57.4	1890年
	3	7 9 4 年	26.9	11.9	35.3	19.4	23.4	
	4	1 9 5 1 年	●75.9	●51.2	●88.2	●87.1	●75.6	1945年
	5	1 1 9 2 年	13.9	○ 6.6	○ 8.8	○ 6.5	○ 9.0	
		平 均	40.9	22.6	40.0	38.7	35.6	

V	1	ウ (登 呂)	33.3	17.9	35.3	19.4	26.5	イ
	2	カ (山 城)	●61.1	●46.4	38.2	39.8	●46.4	ク、エ
	3	ケ (壇 の 浦)	37.0	33.9	17.6	20.4	27.2	ク
	4	オ (安 土)	21.3	●43.5	●47.1	●47.3	39.8	キ、ク、エ
	5	イ (下 田)	●64.8	34.5	23.5	30.1	38.2	ア
		平 均	43.5	35.2	32.3	31.4	35.6	

注 数字はパーセントで誤答率を示す

表－5

## Ⅵ. アンケート集計 (○印中の数字は同順位を表わす)

## 1. 歴史上の好きな人物 Best 5. 注 数字は人数

	小 (108人中)	中 (168人中)	高 — A (34人中)	高 — B (93人中)
1	織田信長 22 <sup>△</sup>	聖徳太子 20 <sup>△</sup>	①織田信長 3 <sup>△</sup>	織田信長 12 <sup>△</sup>
2	豊臣秀吉 15	織田信長 12	①聖徳太子 3	豊臣秀吉 11
3	徳川家康 11	豊臣秀吉 9	③徳川家康 2	聖徳太子 6
4	聖徳太子 7	④徳川家康 5	③源義経 2	徳川家康 5
5	紫式部 4	④卑弥呼 5	③勝海舟 2	坂本龍馬 3
のべ 人数	(26)	(47)	(13)	(30)

## 2. 歴史上のえらいと思う人物 Best 5. 注 数字は人数

	小	中	高 — A	高 — B
1	徳川家康 24 <sup>△</sup>	徳川家康 35 <sup>△</sup>	①徳川家康 3 <sup>△</sup>	徳川家康 22 <sup>△</sup>
2	聖徳太子 19	豊臣秀吉 17	①聖徳太子 3	聖徳太子 16
3	豊臣秀吉 8	聖徳太子 16	③徳川慶喜 2	織田信長 4
4	鑑真 7	④織田信長 5	③伊藤博文 2	④豊臣秀吉 3
5	織田信長 5	④徳川吉宗 5	③犬養毅 2	④伊藤博文 3
のべ 人数	(25)	(34)	(10)	(21)

## 3. 学習したい時代 Best5. 注 数字はパーセント

	小	中	高 — A	高 — B
1	安土桃山時代 21.1	安土桃山時代 21.1	飛鳥時代 23.5	江戸時代 23.2
2	室町時代 19.3	飛鳥時代 17.8	昭和時代 14.8	安土桃山時代 17.9
3	江戸時代 13.8	江戸時代 15.8	③室町時代 8.8	飛鳥時代 15.8
4	大正時代 9.2	明治時代 14.5	③江戸時代 8.8	大正時代 8.4
5	平安時代 8.3	昭和時代 9.2	③明治時代 8.8	⑤室町時代 7.4 ⑤江戸時代 7.4

## 4. 行ってみたい時代 Best5. 注 数字はパーセント

	小	中	高 — A	高 — B
1	※縄文・弥生時代 19.4	①飛鳥時代 17.9	平安時代 18.2	平安時代 22.8
2	平安時代 18.5	①平安時代 17.9	飛鳥時代 12.1	飛鳥時代 14.1
3	安土桃山時代 14.8	江戸時代 15.9	室町時代 9.0	明治時代 9.8
4	④室町時代 9.2	室町時代 11.7	大正時代 6.0	安土桃山時代 6.5
5	④大正時代 9.2	※⑤縄文・弥生時代 9.7 ⑤昭和時代 9.7	⑤鎌倉時代 3.0 ⑤江戸時代 3.0	※昭和時代 5.4

ため、多少の問題がないではなかったわけだが、各自自由にとらえさせ調査した。また、それぞれ1人だけ上げさせたが、複数で答えさせれば別の結果が出たかもしれない。やはりお馴染みの人物にかなり集中する傾向がみられた。中学校で「聖徳太子」が大きく評価されているのを除けば、1「好きな人物」では「織田信長」が、2「えらいと思う人物」ではそろって「徳川家康」が最上位に並んでいる。選んだ理由をみると、「信長」については、「合理的、科学的な思想」「革新的で大胆な行動」「強い意志」といった彼の人間性に魅力を感じているようである。一方「家康」については、「忍耐力」「冷静さ」「努力」などに加えて、「統制力」「江戸幕府の基礎を築く」などの彼の業績を評価している者も多い。なお、今年のNHKの大河ドラマ「徳川家康」が開始されて間も無くの調査であり、これの影響も決して見逃すことはできないものと考えられる。

Ⅵ-3、4は「時代」に対する興味、関心を調査したものであるが、3「学習したい時代」では、小・中共に「安土・桃山時代」が第1位を占める。上の「信長」「秀吉」の人物像とも関連させて考えると、主として男子の支持が高く、ほとんどが「戦国大名、戦乱、城」といった漠然とではあるが「戦国時代」から「天下の統一」のあたりに興味を示す者が多い。「飛鳥時代」も「聖徳太子」をあげ、「不明な点が多く、何となく神秘的で、ロマンがある」といった理由が主で、中・高では次の4「行ってみたい時代」でそれぞれ1、2位を占めることから、修学旅行での印象を見逃さないようにも考えられる。また高等学校の「江戸時代」では、「活気があり、親しみやすく、長い時代の変遷、特に幕末の頃の動きに興味がある」とする者が多い。4「行ってみたい時代」の小学校で「縄文弥生時代」が調査の対象でないにもか、わらず最上位を占めるのが面白い。理由としては、「自給自足の生活」などの原始社会への漠然としたあこがれがほとんどではあるが……。またここでは「平安時代」に圧倒的な人気が集まっているのも特徴的である。大部分は女子の支持によるもので、「十二単衣」に代表される宮中の平安貴族の華やかな生活に対する一種のあこがれからきているのだが、少なからず問題を含んでいるように思われる。この時代に限らず、前述の人物とも関連して考える時、どうしても時代の表面に表われる英雄的人物の動きを中心にその時代を考えていくことになる。その時代を本当の意味で支えていたはずの多くの民衆の生活や動きは軽視されるおそれがないとはいえないのではないのか。我々は日頃からこの点を十分配慮して授業に取り組む姿勢を忘れてはならないと思うのである。

## 6. おわりに

以上、教科書を中心にみた小・中・高の関連表をあげ、基本事項に関する定着度テスト及びアンケートの調査結果を報告した。

たしかに無駄な重複は避けなければいけない。しかし必要な重複、すなわちくりかえしながらの定着という面も忘れてはならない。中学校での歴史の学習が、小学校6学年のその単なる「やきなおし」であってはいけないのである。中学校の生徒はその歴史的思考力の発達段階からみて、「歴史的な因果関係を把握する能力」が発達し、「歴史の発展的理解」が可能になる時期であるといわれている。

この研究を出発点として、小と高にはさまれた我々中学校におけるより能率的、効果的で、より興味深い学習はいかにあらねばならないか、また、基本事項をより定着させるためにはどんな工夫が加えられねばならないか、更にそのための真の意味の内容の精選はどうしたら可能になるのか、などの諸点について、日々の実践活動の中で探り続けていきたいと考えている。

## 歴史的分野における小・中・高学習内容関連表

1年（歴史的分野）

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点的事項	一般的事項	関連的事項	備考	事 項	人 名
	・時代区分 ・世紀		文明のはじまり(5)	オリエンテーション ◎歴史を学ぼう ・年表の使い方			1		
				◎人類の特色 ・人類の進化 ・直立歩行 ・ことばの使用 ◎農耕と牧畜のはじまり ・新石器時代	・人類の祖先 アウストラロピテクス ジャワ原人 クロマニヨン人 ・狩りと魚とりの生活	氷河時代の地球  打製石器 磨製石器 青銅器時代・鉄器時代	2		
				◎大河流域の文明 ・四大河文明  ◎文明の広まり ・オリエント文明	・ナイルの洪水 太陽暦・象形文字・ピラミッド パピルス ・くさび形文字	  フェニキア文字	3		
				◎ギリシア文化 ・ポリス(都市国家) ・民主政治 ・神殿と神話 ◎ローマ文化 ・ローマ帝国 ・ローマ法	・キリスト教のおこり イエスキリスト  ・ヘレニズム文化 アレクサンダー大王	ユダヤ教	4		

				<p>◎仏教のおこり バラモン教 シャカの教え</p> <p>◎中国文化のおこり 黄河文明 甲骨文字</p>	<p>・インダス文明 モヘンジョダロ 計画都市</p>	<p>殷の国 仏教の伝わった道 すじ</p>	5		
				<p>◎中央集権国家の成立 ・秦の始皇帝 万里の長城</p> <p>◎漢文化の栄え ・儒教 ・絹の道</p>	<p>・産業文化の発達 孔子 鉄器の普及</p> <p>・漢の栄え 武帝 楽浪郡</p>	<p>周 春秋戦国時代</p>	6		
	<p>・大森貝塚 ・石器   ・骨角器 ・縄文式土器</p> <p>・登呂遺跡 ・米づくり ・田げた   ・田舟 ・石ばうちょう ・高床式倉庫 ・弥生式土器 ・青銅器</p>	・モース	日本の あけぼ の(4)	<p>◎日本人の祖先 旧石器時代 先土器時代</p>	<p>・日本列島の成り たち、大陸と地 続きの日本</p>		7	<p>・洪積世 ・化石人骨</p>	
				<p>◎人々の暮らし ・住居 ・村 ・狩り、魚とり、 採集</p>	<p>・縄文時代 縄文式土器 貝塚</p>	土偶	8	<p>・新石器文化 ・アニミズム ・屈葬</p>	
				<p>◎金属器の伝来 ・青銅器 ・鉄器 ・農耕文化</p>	<p>・弥生時代 弥生式土器 稲作 たて穴式住居</p>	石器	9	<p>・木製農具 ・石製・鉄製工具</p>	
				<p>◎社会の変化 ・貧富の差</p>	<p>・人々の暮らし 稲作の広まり</p>	豪族		<p>・支石墓 ・かめ棺墓</p>	

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点的事項	一般的事項	関連的事項	備考	事 項	人 名
	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄器</li> <li>むらからくにへ</li> <li>かしら(豪族)</li> <li>たくわえの大小</li> </ul>		日本のあけぼの (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>身分の差</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低地に定住</li> <li>人口増</li> <li>村から国へ支配者</li> </ul>		10	<ul style="list-style-type: none"> <li>弥生文化の発展</li> <li>おもな遺跡分布</li> </ul>	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>◎郷土学習</li> <li>地域の遺跡、遺物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貝塚</li> <li>住居跡</li> <li>道具</li> </ul>		11		
・4C中頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>邪馬台国</li> <li>国土の統一</li> <li>大和朝廷</li> <li>豪族の連合</li> <li>大王</li> <li>天皇</li> </ul>	・卑弥呼	東アジアの動きと日本(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎魏の記録にある日本</li> <li>・魏志倭人伝</li> <li>・邪馬合国</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢の記録にある日本</li> <li>金印</li> </ul>		12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「漢書地理誌」</li> <li>・「後漢書東夷伝」</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高句麗</li> <li>百済</li> <li>新羅</li> <li>任那</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎大和の政権</li> <li>・大和朝廷</li> <li>◎朝廷のしくみ</li> <li>・豪族＝氏の支配</li> <li>・中央の氏</li> <li>・地方の氏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国土の統一</li> <li>大和地方</li> </ul>	・神話 伝説	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「旧辞」「帝紀」</li> <li>・太占の法</li> <li>・盟神探湯</li> <li>・氏姓制度</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>移住してくる人々</li> <li>漢字</li> <li>・儒教</li> <li>・仏教</li> <li>進んだ技術</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎朝鮮、中国の動き</li> <li>・高句麗、新羅</li> <li>百済</li> <li>・晋の三国統一</li> <li>◎新しい文化の伝来</li> <li>・渡来人</li> <li>・技術</li> <li>・漢字、儒教、仏教</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和朝廷の動き</li> <li>任那の滅亡</li> <li>・日本人に同化</li> <li>儒教</li> <li>仏教</li> </ul>	南北朝時代 好太王の碑	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和朝廷の朝鮮半島進出</li> <li>・「宋書」</li> <li>・帰化人</li> </ul>	・倭の五王



<ul style="list-style-type: none"> <li>。 4</li> <li>6 C</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。大王の墓</li> <li>。古墳時代</li> <li>。前方後円墳</li> <li>。はにわ</li> <li>。ピラミッド</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。仁徳天皇</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎古墳の出土品</li> <li>。埴輪</li> <li>。埋葬品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。古墳時代</li> <li>前方後円墳</li> <li>仁徳天皇陵</li> </ul>		15		
			古代国家のなりたち (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎随の中国統一</li> <li>。大運河</li> <li>。万里の長城</li> <li>◎唐の政治</li> <li>。税制—租庸調</li> <li>。均田法</li> <li>。人民の戸籍</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。大帝国の栄え</li> <li>長安の都</li> <li>律・令</li> </ul>	新羅、渤海 日本へ	16		
<ul style="list-style-type: none"> <li>。 593</li> <li>。 607</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。聖徳太子の政治改革</li> <li>。冠位十二階</li> <li>。十七条の憲法</li> <li>。遣隋使</li> <li>。飛鳥文化</li> <li>。法隆寺</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。聖徳太子</li> <li>。蘇我馬子</li> <li>。小野妹子</li> <li>。フェノロサ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎聖徳太子の政治の改革</li> <li>。冠位十二階</li> <li>。憲法十七条</li> <li>◎飛鳥文化</li> <li>。仏教文化</li> <li>。法隆寺</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。遣隋使</li> <li>小野妹子</li> </ul>	中国、朝鮮、インド、ギリシャ、ペルシャ	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>。「天皇記・国記」</li> <li>→おもな美術作品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。物部守屋</li> <li>。推古天皇</li> <li>。煬帝</li> <li>。裴世清</li> <li>。南淵請安</li> <li>。高向玄理</li> <li>。僧 旻</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>。 645</li> <li>。 701</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。文化の改新</li> <li>。大宝律令</li> <li>。唐を手本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。中大兄皇子（天智天皇）</li> <li>。中臣鎌足（藤原鎌足）</li> <li>。蘇我入鹿</li> </ul>	律令政治の動き (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎文化の改新</li> <li>。公地公民</li> <li>。国・郡・里</li> <li>。戸籍</li> <li>。税</li> <li>◎律令の制定</li> <li>。大宝律令</li> <li>◎政治のしくみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。白鳳文化</li> <li>和歌</li> <li>仏像</li> <li>。班田収授の法</li> <li>口分田</li> <li>。公民の義務</li> <li>租庸調誰徭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤原京</li> <li>壬申の乱</li> <li>・天武天皇</li> <li>・持統天皇</li> <li>良民・賤民</li> <li>貧窮問答の歌</li> </ul>	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>。改新の詔</li> <li>。白村江の戦</li> <li>。近江令</li> <li>。庚午年籍</li> <li>。飛鳥浄御原令</li> <li>。八色の姓</li> <li>。畿内・七道</li> <li>。四等官</li> <li>。計 帳</li> <li>。条里制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。蘇我蝦夷</li> <li>。大海人皇子</li> <li>。大友皇子</li> <li>。刑部親王</li> <li>。藤原不比等</li> </ul>

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点的事項	一般的事項	関連的事項	備考	事 項	人 名
・ 710	・ 平城京 ・ 奈良時代 ・ 藤原京 ・ 長安   ・ 平城宮 ・ 木簡 ・ 税   ・ 兵士 ・ 農民の生活 ・ 和同開珎	・ 山上憶良	律令政治の動き (5)	・ 太政官、神祇官 ・ 国郡里大宰府	衛士 防人		19	・ 義倉・出挙 ・ 養老律令	・ 阿倍比羅夫  ・ 光明子 ・ 橘諸兄 ・ 藤原広嗣 ・ 光仁天皇 ・ 藤原仲麻呂 (恵美押勝) ・ 犬上御田歙 ・ 玄昉 ・ 吉備真備 ・ 稗田阿礼 ・ 太安麻呂 ・ 舍人親王 ・ 淡海三船 ・ 石上宅嗣 ・ 行基 ・ 山部赤人 ・ 大伴家持
				◎平城京 ・ 律令政治 ・ 都と国府 ・ 和同開珎 ◎班田収授の法くずれる ・ 三世一身の法 ・ 墾田永年私財法	・ 農民の生活  たて穴式住居 重税	長岡京 駅 物々交換	20	・ 駅制 ・ 蝦夷 ・ 淳足・磐舟の柵 ・ 出羽国 ・ 多賀城 ・ 隼人 ・ 大隅国	
				◎遣唐使 ・ 阿部仲麻呂 ・ 鑑真 ◎唐風の文化一天平文化 東大寺、正倉院 聖武天皇	・ 歴史書と文学 古事記 日本書紀 万葉集 ・ 風土記	ガラス	21	・ 大学・国学 ・ 大寺 ・ 万葉がな →おもな美術品 ・ 六国史	
				◎郷土の歴史 ・ 文化遺産 ・ 人々の生活			22	・ 「懐風藻」 ・ 南都六宗 ・ 三筆	
・ 794	・ 平安京 ・ 平安時代	・ 桓武天皇	貴族政治の動き (3)	◎平安京 ・ 規模 ・ 桓武天皇の政治  ◎仏教の革新 ・ 天台宗一最澄	・ 平安初期の文化 儒教 } 唐風文化 漢詩 } 漢文 }	・ 道 鏡 ・ 坂上田村麻呂 令外の官格・式		・ 勘解由使 ・ 健児の制 ・ 蔵人 ・ 檢非違使  ・ 弘仁・貞観文化 ・ 密教	・ 嵯峨天皇 ・ 藤原冬嗣 ・ 藤原良房 ・ 藤原基経

				・真言宗－空海			23	・成功・達任 ・院庁下文 ・院宣 ・田 堵 ・本地垂迹説	・定朝 ・後三条天皇 ・白河上皇 ・鳥羽・後白河上皇
	・藤原氏の栄え  ・平等院鳳凰堂	・藤原鎌足 ・藤原道長 ・藤原頼通 ・菅原道真		◎摂関政治 ・藤原氏の進出 ・摂政、関白 ・藤原道長、頼道	・院政 白河天皇	平等院鳳凰堂	24		
	・日本風の文化 ・寝殿造 ・かなの発明 ・「竹取物語」 ・「源氏物語」 ・荘園	・紫式部		◎荘園のおこり ・貴族、杜寺、豪族 ・名主 ◎荘園の広まり ・不輸の権 ・不入の権	・平安文化—— 国風文化 寝殿造 大和絵 ・かなの文学 和歌 物語 隋筆 ・浄土教	中尊寺金色堂 遣唐使の廃止 ・清少納言・紀貫之 末法思想 ・空也 ・源信	25	・三蹟 ・寄木造  ・自墾地系荘園 ・寄進地系荘園 ・記録所	
	・武士のおこり ・武士団 ・地方の豪族	・藤原利仁  ・源義家	武士の 進出(2)	◎武士のおこり ・各地の豪族の 武装化 ・棟梁 ◎武士の力 ・平将門の乱 ・藤原純友の乱	・源氏の進出  ・平氏の進出	前九年、後三年の 役 平泉	26	・家子・郎等 ・追捕使 ・押領使 ・桓武平氏 ・清和源氏 ・承平天慶の乱	・源 満仲 ・源 頼義  ・藤原清衡 ・藤原基衡 ・藤原秀衡 ・平 忠盛 ・崇徳上皇 ・源 義朝 ・平 清盛 ・源 為義 ・藤原信西 ・平 重盛 ・徳子(建礼門院)
・1167	・日宋貿易	・平 清盛		◎平氏の政治 ・保元の乱 ・平治の乱 ・日宋貿易	・唐から宋へ 中国 朝鮮 満州	僧兵	27	・強訴 ・平安末期の文化 ↓おもな作品 ・今様・田楽 ・散楽(猿楽)	・源平の争乱 ・大犯三ヶ条 ・大追物・笠懸 流鏑馬・巻狩
・1185	・源平の合戦 ・壇の浦	・源 義経							
・1192	・鎌倉幕府 ・征夷大將軍 ・鎌倉時代 ・守護・地頭 ・御家人	・源 頼朝	鎌倉幕 府の成 立 (4)	◎鎌倉幕府 ・頼朝の支配 ・武家政治のは じまり	・平氏の滅亡 壇の浦 ・封建制度 御家人	御恩と奉公 惣領			・源 頼政 ・以 仁王 ・源 義仲

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点の事項	一般の事項	関連の事項	備考	事 項	人 名
・1221 ・1232	・「いざ鎌倉」 ・「鉢の木」	・佐野常世 ・北条時頼	鎌倉幕府の成立 (4)	・公武二重の政治	守護・地頭		28	・本領安堵 ・新恩給与 ・武士道 ・西面の武士 ・連 署 ・本補地頭 ・新補地頭 ・引付衆 ・式目追加 ・分割相続 ・武家造 ・地頭請 ・下地中分 ・三斎市   ・座 ・問丸   ・借上 ・浄土宗   ・時宗 →おもな著作物 →おもな美術作品 ・天竺様・唐様	・源範頼
	・源氏三代 ・執権 ・北条氏 ・承久の乱 ・御成敗式目			◎北条氏が力をもつ ・執権政治 ◎承久の乱 ・後鳥羽上皇挙兵 ・幕府の勝利 ・六波羅探題	・御成敗式目 北条泰時	評定衆 ・北条政子 ・源 頼家 ・源 実朝 ・北条義時 ・北条時頼	29		
	・農業の進歩 ・定期市   ・宋銭 ・職人   ・商人 ・新しい仏教 ・禅の教え ・金剛力士像 ・「平家物語」 ・びわ法師			◎鎌倉仏教 ・貴族のおとろえ ・念仏、法華 禅 ・浄土真宗、日蓮宗、曹洞宗、臨西宗	・新しい文学 平家物語 徒然草 新古今和歌集 ・力強い美術 金剛力士像 絵巻物 東大寺、南大門	宋の陶器 金沢文庫 ・法然 ・親鸞 ・一遍 ・日蓮 ・栄西 ・道元	30 31		
・1274 ・1281	・元寇 ・幕府のおとろえ ・高利貸し	・北条時宗	蒙古の襲来(2)	◎元の襲来 ・チンギスカン ・フビライ ・執権北条時宗	・東西の交流 東方見聞録 火葬、羅針盤	文永の役 弘安の役 ・マルコ・ポーロ	32	・異国警固番役 ・鎮西探題 ・得 宗	
				◎鎌倉幕府のおとろえ ・幕府への不法 ・徳政令	・力をもつ守護 新興武士の台頭		33		
・1333 ・1334	・鎌倉幕府亡びる ・建武の新政	・後醍醐天皇	室町幕府の政	◎新政の混乱 ・公家と武士の対立	・鎌倉幕府の滅亡 後醍醐天皇			・持明院統 ・大覚寺統	・北条高時

1338	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北朝時代</li> <li>室町幕付</li> <li>室町時代</li> <li>金閣</li> <li>守護大名</li> <li>倭寇</li> <li>日明貿易</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>足利尊氏</li> <li>足利義満</li> </ul>	治と外交 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>公家政治のみだれ</li> <li>武家政治をのぞむ</li> </ul>	足利尊氏 新田義貞		34	<ul style="list-style-type: none"> <li>正中の変</li> <li>雑訴決断所</li> <li>建武式目</li> <li>観応の擾乱</li> <li>半済法</li> <li>国人</li> <li>守護請</li> <li>守護領国制</li> <li>三管領四職</li> <li>段銭・棟別銭</li> <li>天龍寺船</li> <li>おもな貿易品</li> <li>前期倭寇と後期倭寇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>光明天皇</li> <li>足利直義</li> <li>足利基氏</li> <li>足利義持</li> <li>足利義教</li> <li>宗氏（対馬）</li> <li>尚氏（沖縄）</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>◎室町幕府の成立</li> <li>足利義満</li> <li>将軍の補佐役 管領</li> <li>守護大名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南朝と北朝</li> <li>南北朝の争乱</li> <li>南北朝の合一</li> </ul>	太平記 神皇正統記 ・北畠親房	35		
				<ul style="list-style-type: none"> <li>◎倭寇と日明貿易</li> <li>日本の海賊</li> <li>勘合貿易</li> <li>大内氏、細川氏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国、朝鮮の動き</li> <li>漢文化の復興</li> <li>朝鮮建国 （李氏朝鮮）</li> </ul>	琉球王国  ・李成桂	36		
1485	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄合</li> <li>商業の栄え</li> <li>関所</li> <li>門前町</li> <li>城下町</li> <li>港町</li> <li>市場町</li> <li>堺の町の自治</li> <li>土一揆</li> <li>下剋上</li> <li>応仁の乱</li> <li>一向一揆</li> <li>国一揆</li> <li>山城の国一揆</li> <li>戦国の世</li> </ul>		庶民の成長(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎農民の独立</li> <li>名主</li> <li>惣一村の自治</li> <li>寄合</li> <li>◎商業の発達</li> <li>問丸、馬借、土倉、酒屋</li> <li>座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>座の発達</li> <li>都市のおこり 京都、奈良</li> <li>博多 堺 一町の自治</li> </ul>	農業の進歩  手工業の発達	37	<ul style="list-style-type: none"> <li>惣村→郷</li> <li>百姓請（地下請）</li> <li>村掟</li> <li>会合衆</li> <li>町衆</li> <li>六斎市</li> <li>永楽通宝</li> <li>撰銭（令）</li> <li>為替</li> <li>津料・関銭</li> <li>愁訴・強訴・逃散</li> <li>徳政一揆</li> <li>永享の乱</li> <li>嘉吉の乱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>足利持氏</li> <li>足利義政</li> <li>足利義視</li> <li>足利義尚</li> <li>日野富子</li> <li>齊藤道三</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>◎土一揆</li> <li>重い年貢</li> <li>借金棒引き</li> <li>質入れ</li> <li>◎土一揆の力</li> <li>一向一揆</li> <li>国一揆</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>応仁の乱</li> <li>下剋上の風潮</li> <li>細川勝元</li> <li>山名宗全</li> <li>戦国時代</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>足利義政</li> </ul>	38		
				◎戦国大名	◎城下町の成立	・北条早雲		<ul style="list-style-type: none"> <li>家臣団</li> </ul>	

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点的事項	一般的事項	関連的事項	備考	事 項	人 名
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦国時代</li> <li>・戦国大名</li> </ul>		庶民の成長(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島津 北条</li> <li>・武田 上杉</li> <li>・富国強兵策</li> <li>・分国法</li> </ul>	小田原－北条氏  山口－大内氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武田信玄</li> <li>・上杉謙信</li> </ul>	39	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄親・寄子</li> <li>・家法・国法・壁書</li> </ul>	・毛利元就
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おとぎ話・絵本</li> <li>・書院造</li> <li>・いけ花・茶の湯</li> <li>・能</li> </ul>	・雪舟		◎室町文化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・北山文化 (金閣)</li> <li>・東山文化 (銀閣)</li> </ul> ◎民衆文化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・お伽草子</li> <li>・連歌</li> <li>・能楽・狂言</li> </ul>	◎文化の広まり 足利学校 寺子屋 浄土真宗 ・書院造 ・水墨画	狩野派	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五山の制</li> <li>・十刹の制</li> <li>・講</li> <li>・五山文学</li> <li>→おもな著作物</li> <li>→おもな美術作品</li> <li>・法華一揆</li> <li>・唯一神道</li> <li>・俳諧</li> <li>・南学</li> </ul>	・蓮如
				◎加賀の一向一揆 <ul style="list-style-type: none"> <li>・富樫氏</li> <li>・約1世紀にわたる自治</li> </ul>			41		
			ヨーロッパ人の来航 (3)	◎ゲルマン人の民族移動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フランク王国の分裂</li> <li>・アングロサクソン人</li> <li>・ノルマン人</li> </ul>	・十字軍 原因と影響 大遠征失敗 東方文化の伝来 ・イスラム文化の役割	・ローマ法王 (教皇) ・ヨーロッパの封建制度 イスラム帝国	42		
				◎ルネサンス <ul style="list-style-type: none"> <li>・イタリアの都市</li> <li>・自由市民の成長</li> </ul> ◎宗教改革 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルター</li> </ul>	・学問と芸術 ダンテ レオナルド・ダヴィンチ ラファエロ、ミケランジェロ ガリレイ、コッペリウス ・プロテスタント ・イエズス (耶蘇会)	火薬、羅針盤、 活版印刷 ・ロヨラ・ザビエル			

◦1543 ◦1549	◦鉄砲伝わる ◦キリスト教伝わる			◦カルビン			43	◦少年使節 ◦紅毛人 ◦コレジオ ◦セミナリオ ◦南蛮寺	◦大友義鎮 ◦有馬晴信 ◦大村純忠 ◦種子島時堯
				◎新航路の発見 ◦ポルトガル スペイン ◦バスコ=デ=ガマ ◦コロンブス ◦マゼラン ◎鉄砲伝来 ◦ポルトガル人 ◦戦術変化	◦海外への進出 アメリカ大陸へ アジアへ  ◦キリスト教の伝来 ザビエル キリシタン大名 ◦南蛮貿易 西国大名	マヤ文明・インカ帝国 ◦アメリカ・ベスブッチ	44		
◦1573  ◦1590	◦桶狭間の戦 ◦長篠の戦 ◦室町幕府亡びる ◦安土城 ◦安土桃山時代  ◦全国の統一  ◦太閤検地 ◦刀狩 ◦朝鮮出兵 ◦商業、貿易保護	◦今川義元 ◦織田信長  ◦豊臣秀吉	国内統一 (3)	◎統一への歩み ◦織田信長 ◦安土城 ◦明智光秀の反乱 ◎統一の完成 ◦豊臣秀吉 ◦大阪城	◦安土桃山時代 信長 秀吉	本能寺の変	45	◦姉川の戦  ◦賤ヶ岳の戦 ◦天正の大判 ◦聚楽第 ◦五奉行・五大老 ◦天正の石直し ◦一地一作人制 ◦身分統制令 ◦バテレン追放令 ◦朱印状 ◦文禄の役 ◦慶長の役	◦足利義昭 ◦朝倉義景 ◦浅井長政 ◦武田勝頼 ◦柴田勝家 ◦長宗我部元親 ◦島津義久 ◦北条氏政   ◦高山右近 ◦小西行長 ◦加藤清正
				◎秀吉の政策 ◦太閤検地 ◦刀狩 ◦兵農分離	◦信長の政策 キリスト教保護 楽市 楽座 ◦秀吉の外交 貿易商人保護 朝鮮出兵	◦伊達政宗  文禄の役・慶長の役		46	
				◎桃山文化の特色 ◦雄大な天守をもつ城	◦民衆の生活 人形浄瑠璃	姫路城・大阪城	→おもな美術作品		

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点的事項	一般的事項	関連的事項	備考	事 項	人 名
			国内統一 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふすま絵と屏風の絵</li> <li>・茶道</li> </ul>	阿国歌舞伎 <ul style="list-style-type: none"> <li>・南蛮文化</li> </ul> 印刷技術 西洋の日用品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狩野永徳</li> <li>・千利休</li> </ul>	47	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリシタン版・天草版</li> </ul>	
・1600 ・1603	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代</li> <li>・関ヶ原の戦い</li> <li>・江戸幕府</li> <li>・征夷大將軍</li> <li>・江戸城</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徳川家康</li> <li>・豊臣秀頼</li> <li>・徳川家光</li> </ul>	江戸幕府の成立 (6)	◎幕府の成立 <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳川家康</li> <li>・関ヶ原の戦い</li> <li>・征夷大將軍</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幕府のしくみ</li> <li>強い將軍の力</li> </ul>	大阪夏の陣	48	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幕藩体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石田三成</li> <li>・徳川秀忠</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大名のとりしまり</li> <li>・参勤交代</li> <li>・藩</li> <li>・大名の配置</li> <li>・親藩・譜代・外様</li> <li>・直轄領(天領)</li> <li>・おもな交通路</li> <li>・五街道</li> <li>・関所</li> </ul>			◎大名統制 <ul style="list-style-type: none"> <li>・武家諸法度</li> <li>・参勤交代</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強力な幕府の力</li> <li>大名、旗本、御家人</li> </ul> 幕府領 親藩 譜代 外様	禁中並公家諸法度 御三家	49	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一国一城令</li> <li>・武断政治</li> <li>・改易</li> <li>・地方知行制</li> </ul>	
				◎藩政の監視 <ul style="list-style-type: none"> <li>・藩財政の基礎</li> <li>・藩財政の負担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貨幣発行の独占</li> <li>貨幣の統一</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸中心の交通</li> <li>五街道</li> <li>関所設置</li> </ul>	封建社会  城下町	50		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朱印船</li> <li>・日本町</li> <li>・キリスト教禁止</li> </ul>			◎朱印船貿易 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポルトガル、スペイン</li> <li>・大名、大商人</li> <li>・朱印状</li> </ul> ◎貿易と布教 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教と日本の道徳</li> <li>・封建制度確立のさまたげ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・布教の禁止</li> <li>キリスト教禁止</li> </ul> 貿易統制 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人の海外進出、各地に日本町</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィリアム・アダムズ (三浦按針)</li> <li>・ヤン・ヨーステン</li> </ul>	51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糸割符制度</li> <li>・奉書船</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支倉常長</li> <li>・末次平藏</li> <li>・末吉孫左衛門</li> <li>・角倉了以</li> <li>・茶屋四郎次郎</li> <li>・山田長政</li> </ul>
・1637	・島原の乱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・益田時貞 (天草四郎)</li> </ul>	◎島原の乱		・天草四郎(益田時貞)	宗門改め・檀家		・寺請制度	



<ul style="list-style-type: none"> <li>◦1635</li> <li>◦1639</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦絵ふみ</li> <li>◦鎖国令</li> <li>◦ポルトガル船の来航禁止</li> <li>◦長崎の出島</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>◦重い年貢</li> <li>◦キリスト教徒迫害</li> <li>◦絵ふみ</li> <li>◎鎖国の完成</li> <li>◦ポルトガル船来航禁止</li> <li>◦長崎の出島</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦鎖国後の日本</li> <li>◦日本町消滅</li> <li>◦幕府の力強まる</li> </ul>	「風説書」 清・朝鮮・琉球	52	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦本山末寺制度</li> <li>◦キリスト教禁止令</li> <li>◦オランダ風説書</li> <li>◦唐人屋敷</li> </ul>	
				◎城下町金沢計画 古い地名			53		
<ul style="list-style-type: none"> <li>◦1649</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦土農工商</li> <li>◦武士の特権</li> <li>◦農民のとりしまり</li> <li>◦慶安の御触書</li> <li>◦年貢</li> <li>◦五公五民</li> <li>◦名主(庄屋)</li> <li>◦五人組</li> </ul>		土農工商の社会 (3)	◎土農工商の身分制 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦支配階級と被支配階級</li> <li>◦住所、職業、結婚などの差別</li> </ul> ◎武士の特権 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦年貢納めない</li> <li>◦切り捨て御免</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦武士の学問と道徳 朱子学</li> <li>◦儒教思想</li> </ul>	・林羅山	54	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦穢多・非人</li> <li>◦男尊女卑</li> <li>◦本百姓・水呑百姓</li> <li>◦本年貢(本途物成)・小物成</li> <li>◦助郷役</li> <li>◦田畑永代売買禁令</li> <li>◦分地制限令</li> <li>◦運上・冥加</li> </ul>	
				◎農民統制 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦慶安の御触書</li> <li>◦重い年貢</li> <li>◦土地売買や移転の禁止</li> <li>◦五人組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦町人の生活</li> <li>◦町名主</li> <li>◦組頭</li> <li>◦職人 商人</li> </ul>	家族制度 ゆい(結) 寄合 村八分	55		
				◎加賀の当時の人々の暮らし ◦農村の人々の暮らし			56		

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点的事項	一般的事項	関連的事項	備考	事 項	人 名
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農民の努力</li> <li>・新田の開発</li> <li>・箱根用水</li> <li>・備中ぐわ・千歯こき</li> <li>・ほしか</li> <li>・新しい農産物</li> <li>・各地の特産物</li> </ul>		都市の発達と産業の発達(2)	◎農業技術の発達 <ul style="list-style-type: none"> <li>・農具の改良</li> <li>・肥料の使用</li> <li>・新しい農産物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の重視</li> <li>かんがい用水</li> <li>新田開発</li> <li>・鉱業と手工業</li> <li>金山、銀山、銅山</li> <li>織物、漆器</li> </ul>	漁業の発達  各地の特産物	57	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「農業全書」</li> <li>・上方漁法</li> <li>・俵物</li> <li>・塩田</li> <li>・農村家内工業</li> <li>・問屋制家内工業</li> </ul>	・宮崎安貞
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天下の台所</li> <li>・蔵やしき</li> <li>・東まわり西まわり航路</li> <li>・越後屋</li> </ul>	・三井高利		◎三都のにぎわい <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸ー将軍のおひざもと</li> <li>・大阪ー天下の台所</li> <li>・京都ー古くからの政治、文化の中心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通の発達</li> <li>宿場町、門前町</li> <li>港町</li> <li>東回り西回り航路</li> <li>・商業の発達</li> <li>両替商、蔵元</li> <li>問屋 蔵屋敷</li> </ul>	五街道  内陸水路  西陣織	58	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継飛脚</li> <li>・町飛脚</li> <li>・助郷</li> <li>・関所</li> <li>・菱垣廻船</li> <li>・樽廻船</li> <li>・掛屋</li> <li>・株仲間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河村端軒</li> <li>・角倉了以</li> <li>・紀国屋文左衛門</li> <li>・淀屋辰五郎</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町人の文化</li> <li>・人形浄るり</li> <li>・歌舞伎</li> <li>・俳句</li> <li>・浮世絵</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鴻池宗利</li> <li>・近松門左衛門</li> <li>・井原西鶴</li> <li>・松尾芭蕉</li> </ul>	幕府政治と元禄文化(3) ※身近な地域	◎網吉の政治 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文治政治</li> <li>・生類憐みの令</li> </ul> ◎元禄文化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・浮世草子</li> <li>・浄瑠璃</li> <li>・俳諧</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新井白石の政治</li> <li>正徳の治</li> <li>丈治主義</li> <li>歌舞伎</li> </ul>	湯島の聖堂 「読史余論」	59	<ul style="list-style-type: none"> <li>・由井正雪の乱</li> <li>・藩学</li> <li>・閉院宮家</li> <li>・長崎新令</li> <li>→おもな美術作品</li> <li>→おもな文学作品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徳川家綱</li> <li>・保科正之</li> <li>・池田光政</li> <li>・前田綱紀</li> <li>・徳川家宣</li> <li>・徳川家継</li> <li>・竹本義太夫</li> </ul>
				◎学問の普及 <ul style="list-style-type: none"> <li>・朱子学</li> <li>・古学</li> <li>・陽明学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術の発達</li> <li>装飾画</li> <li>浮世絵</li> <li>・科学のめばえ</li> </ul>	日光東照宮 「大日本史」 ・徳川光圀 ・荻生徂徠 ・中江藤樹		→おもな著作物 <ul style="list-style-type: none"> <li>・南学</li> <li>・垂加神道</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原惺窩</li> <li>・南村梅軒</li> <li>・山崎闇斎</li> </ul>

					医学 暦学 和算	・ 関 孝和	60	・ 錦絵 ・ 黄檗宗	・ 熊沢藩山 ・ 山鹿素行 ・ 伊藤仁斎・東涯
				◎享保の改革 ・ 吉宗の改革 ・ 幕府財政の再 建 ・ 武士の精神引 きしめ ・ 増収	・ 財政のゆきづま り 商業繁栄 藩財政窮乏 ・ 窮乏のきりぬけ 借金 藩札発行 下級武士	公事方御定書 上米の制 目安箱	61	・ 検見法 ・ 定免法 ・ 足高の制 ・ 相対済し令	・ 柳沢吉保 ・ 貝原益軒  ・ 安井算哲 ・ 戸田茂睡 ・ 契沖 ・ 北村季吟 ・ 市川団十郎 ・ 坂田藤十郎 ・ 尾形光琳 ・ 依屋宗達 ・ 菱川師宣 ・ 野々村仁清 ・ 尾形乾山 ・ 隠元 ・ 青木昆陽

二年（歴史的分野）

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点的事項	一般的事項	関連的事項	備考	事 項	人 名
			市民革命と産業革命 (7)	◎市民革命 ・絶対主義、重商主義 ・エリザベス1世、ルイ14世 ・市民革命	・スペイン無敵艦隊 ・ベルサイユ宮殿	東インド会社	1		
				◎イギリスの革命 ・清教徒革命 ・クロムウエル ・名誉革命「権利章典」	・共和政 ・議会政治		2		
	・アメリカの独立			◎アメリカの独立 ・独立戦争、ワシントン ・独立宣言 ・アメリカ合衆国憲法	・13州植民地 ・三権分立	アメリカ植民	3		
	・フランス革命			◎フランス革命 ・啓蒙思想、ルソーモンテスキュー ・革命と人権宣言 ・ナポレオン	・社会契約論 ・法の精神 ・帝政	バスチーユ牢獄	4		
				◎イギリスの産業革命 ・工場制手工業	・経済活動の自由	・ワット			

				<p>(マニファクチュア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械の発明→工場制機械工業</li> <li>・蒸気機関の利用→動力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦資本、市場、労働力</li> <li>◦交通革命（汽車、汽船）</li> </ul>	産業革命の広まり	5		
				<p>◎資本主義社会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資本家と労働者</li> <li>・労働問題</li> </ul> <p>◎近代国家の成立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙権の拡大（英・仏）</li> <li>・政党政治、議会政治（英）</li> <li>・二月革命（仏）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦労働組合</li> <li>◦社会主義社会・マルクス</li> <li>◦七月革命（仏）</li> </ul>		6		
				<p>◎南北戦争</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南部と北部の対立</li> <li>・奴隷解放宣言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦リンカーン</li> <li>◦ゲチスバーグ演説</li> </ul>		7		
				<p>◎近代ヨーロッパ文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイヤー デーウイン</li> <li>・カント アダム=スミス</li> <li>・ロマン主義 写実</li> <li>・主義、自然主義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ニュートン</li> <li>◦ゲーテ ロダン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベートーベン</li> <li>・バルザック</li> <li>・トルストイ</li> <li>・ミレー</li> <li>・ルノアール</li> <li>・セザンヌ</li> </ul>	8		
	◦ヨーロッパ諸国のアジア進出		欧米列強のアジア進出 (2)	<p>◎セボイの反乱</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリス インド清の貿易</li> </ul>	◦アジアの三大帝国 オスマントルコ				

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点的事項	一般的事項	関連的事項	備考	事 項	人 名
			欧米列強のアジア進出 (2)	・ムガル帝国の滅亡 ◎アヘン戦争 ・漢民族の反感 ・アヘンの輸入と銀の流出 ・南京条約 ◎太平天国の乱 ・洪秀全	ムガル、清    ・ロシアの南下 ・アメリカの接近		9    10		
	・商品作物 ・貨幣経済の発達 ・幕府藩の財政難 ・農民の生活難		封建社会のゆきづまり (5)	◎農村の変化 ・商品作物の栽培 ・問屋制家内工業 ・幕府藩の専売制と農民統制	・貨幣経済の発達  ・地主・小作農の増加	えた非人に対する差別強化  19世紀工場制手工業発達	11		
・1793	・天災やききん ・百姓一揆 ・武左衛門一揆 ・打ちこわし ・洪染一揆			◎社会変動のきざし ・天災ききんと重い年貢 ・百姓一揆や打ちこわし ・封建制批判	・民衆の自覚	・安藤昌益	12		
・1798	・国学 ・「古事記伝」 ・尊王論 ・洋学 (蘭学)	・本居宣長 ・賀茂真淵 ・シーボルト ・高野長英		◎新しい学問 ・国学の発達→本居宣長 ・洋学の発達→杉田玄白	・心学 ・シーボルト	藩校・寺子屋 ・賀茂真淵 ・本居宣長 ・平田篤胤 ・塙保己一 ・杉田玄白		・和学講談所 ・蕃書調所 ・郷学 →おもな著作品 ・「ハルマ和解」	・荷田春満 ・大槻玄沢 ・稲村三伯 ・緒方洪庵
・1774	・「解体新書」	・杉田玄白							

	。寺子屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>。前野良沢</li> <li>。中川淳庵</li> <li>。伊能忠敬</li> <li>。安藤昌益</li> <li>。司馬江漢</li> <li>。渡辺華山</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>。前野良沢</li> <li>。平賀源内</li> <li>。伊能忠敬</li> <li>。石田梅岩</li> </ul>	13		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎田沼意次の政治 <ul style="list-style-type: none"> <li>。長崎貿易の拡大</li> <li>。株仲間の公認</li> <li>。産業の開発</li> </ul> </li> <li>◎寛政の改革(松平定信) <ul style="list-style-type: none"> <li>。米以外の作物制限</li> <li>。寛政異学の禁</li> <li>。御家人の借金償済</li> <li>。海防強化</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。町人の財力利用</li> <li>。わいろ政治</li> <li>。ききん対策</li> <li>。出かせぎ人対策</li> <li>。蝦夷地調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>享保の改革手本</li> <li>。林 子平</li> <li>「海国兵談」</li> <li>ラクスマン通商を求める</li> </ul>	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>。藩政改革</li> <li>。囲米</li> <li>。七分積金</li> <li>。棄捐令</li> <li>。人足寄場</li> <li>。昌平坂学問所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。上杉治憲</li> <li>。佐竹義和</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎化政文化 <ul style="list-style-type: none"> <li>。江戸中心の町人文化</li> <li>。こつかい、しゃれ、皮肉</li> <li>錦絵の流行</li> </ul> </li> </ul>	。川柳・狂歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>。十返舎一九</li> <li>。滝沢馬琴</li> <li>。蕪村・一茶</li> <li>。鈴木春信・喜多川歌麿</li> <li>。葛飾北斎・安藤広重</li> <li>。司馬江漢</li> </ul>	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>→おもな文学作品</li> <li>→おもな美術作品</li> <li>。酒落本</li> <li>。滑稽本</li> <li>。読本</li> <li>。文人画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。式亭三馬</li> <li>。柄井川柳</li> <li>。蜀山人</li> <li>。東州斎写楽</li> <li>。池 大雅</li> <li>。円山応挙</li> </ul>
。1837	。大塩平八郎の乱		天保の改革(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎天塩平八郎の乱 <ul style="list-style-type: none"> <li>。天保のききん米商人買占め役人の不正</li> <li>。幕府の直轄地、経済の中心地での乱</li> </ul> </li> <li>◎天保の改革(水野忠那)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。もと大阪町奉行所与力</li> <li>。百姓一揆、打ちこわし</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>。大御所時代</li> <li>。人返しの法</li> <li>。棄捐令</li> <li>。上知(地)令</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>。徳川家斉</li> <li>。生田万</li> </ul>

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点的 事項	一般的 事項	関連的 事項	備考	事 項	人 名
1837	・薩摩・長州藩の 倒幕運動		天保の 改革(2)	・株仲間の解散 ・生活へのきび しい干渉			16	・フェートン号事件	・調所広郷 ・村田清風
				◎薩摩、長州藩の 改革成功 ・特産物の専売制 ・近代的軍備充実 ◎強まる外圧と開 国の要求 ・蝦夷地の直轄 と警備 ・外国船打払令 →後ゆるめる ・鎖国批判→蛮 社の獄 ・開国の要求… 蘭、アメリカ	・下級武士の活や く ・倒幕運動の中心 ・樺太・4島探検 ・モリソン号事件	・間宮林蔵      ・高野長英 ・渡辺華山	17		
1839	・モリソン号事件  ・鎖国政策批判 ・高野長英・渡辺 華山の処罰	・勝海舟						・無二念打払令 ・宝暦事件 ・明和事件 ・尊王攘夷論	・近藤重蔵 ・レザノフ ・熊沢蕃山 ・荻生徂徠 ・太宰春台  ・平田篤胤 ・本多利明 ・佐藤信淵 ・富永仲基 ・山片蟠桃 ・佐々間象山
1853	・黒船の来日	・ペリー	日本の 開国(4)	◎黒船の来航 ・ペリー ・日米和親条約 →開国 ・日米修好通商条約	・ハリス ・井伊直弼 ・不平等条約	欧米諸国のアジア 進出	18	・安政の五ヶ国条約	・ビッドル ・プーチャーチン ・阿部正弘 ・堀田正睦
1854	・日米和親条約			◎開国後の混乱 ・貿易による品不足 ・物価上昇 ・幕府非難→安 政の大獄	・桜田門外の変	・橋本左内 ・吉田松陰	19	・五品江戸廻送令	・徳川慶喜 ・徳川慶福
1858	・日米修好通商条約  ・開国の結果								



	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 尊王攘夷運動</li></ul>			<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 尊王、攘夷運動<ul style="list-style-type: none"><li>・ 攘夷運動</li><li>・ 尊王運動</li></ul>結びつく</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 下関戦争</li><li>・ 生麦事件→薩英戦争</li></ul>		20	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 坂下門外の変</li><li>◦ 文久の改革</li><li>◦ 八月十八日の政変</li><li>◦ 四国艦隊下関砲撃事件</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 安藤信正</li><li>◦ 島津久光</li><li>◦ 三条実美</li></ul>
◦ 1866	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 尊王倒幕運動</li><li>◦ 薩長同盟</li><li>◦ 「世直し」</li></ul>			<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 江戸幕府の滅亡<ul style="list-style-type: none"><li>・ 尊王攘夷→尊王倒幕</li><li>・ 薩長同盟</li><li>・ 長州征伐</li><li>・ 大政奉還と王政復古の大号令</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 世なおし一揆</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 高杉晋作</li><li>・ 木戸孝允</li><li>・ 西郷隆盛</li><li>・ 大久保利通</li><li>・ 坂本龍馬・岩倉具視</li><li>武家政治のおわり</li><li>・ 徳川慶喜</li><li>・ 山内豊信</li></ul>	21	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 奇兵隊</li><li>◦ “ええじゃないか”</li><li>◦ 小御所会議</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 中岡慎太郎</li><li>◦ 後藤象二郎</li></ul>
◦ 1867	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 大政奉還</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 徳川慶喜</li></ul>							
◦ 1868	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 五ヶ条の御誓文</li><li>◦ 明治維新</li><li>◦ 東京遷都</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 西郷隆盛</li><li>◦ 大久保利通</li><li>◦ 木戸孝允</li><li>◦ 明治天皇</li></ul>	明治維新 (4)	<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 新政府の成立<ul style="list-style-type: none"><li>・ 戊辰戦争</li><li>・ 五か条の御誓文</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 明治維新</li><li>◦ 西郷隆盛</li><li>◦ 東京遷都</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 明治天皇</li><li>五枚の高札</li></ul>	22	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 三権分立制</li><li>◦ 一世一元の制</li><li>◦ 五榜の掲示</li><li>◦ 神仏分離令</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 榎本武揚</li></ul>
◦ 1871	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 版籍奉還</li><li>◦ 廃藩置県</li></ul>			<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 政治の改革<ul style="list-style-type: none"><li>・ 版籍奉還</li><li>・ 廃藩置県</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 知藩事</li><li>◦ 県令</li></ul>		23	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 太政官制</li></ul>	
◦ 1879	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 沖縄県</li></ul>			<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 身分制度<ul style="list-style-type: none"><li>・ 四民平等</li><li>・ 被差別部落</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 皇族、華族、士族</li><li>◦ 平民</li></ul>		24	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 秩禄処分</li></ul>	
	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 四民平等</li></ul>			<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 外交、領土問題<ul style="list-style-type: none"><li>・ 不平等条約改正交渉→失敗</li><li>・ 征韓論</li><li>・ 琉球、小笠原、</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 岩倉使節団</li><li>◦ 日清修好条規</li><li>◦ 日鮮修好条規</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 岩倉具視</li><li>・ 大久保利通</li><li>・ 西郷隆盛</li><li>・ 板垣退助</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>◦ 江華島事件</li></ul>	

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重 点 の 事 項	一 般 的 な 事 項	関 連 の 事 項	備考	事 項	人 名
・1873	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富国強兵</li> <li>・徴兵令</li> </ul>		富国強兵と文明開化 (4)	千島日本領 ◎富国強兵 <ul style="list-style-type: none"> <li>・徴兵令と国民皆兵</li> <li>・士族の特権廃止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徴兵免除、徴兵反対一揆</li> <li>・士族の商法</li> </ul>	樺太・千島交換条約	25	新貨条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渋沢栄一</li> <li>・前島 密</li> <li>・岩崎弥太郎</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・殖産興業</li> <li>・官営工場</li> <li>・北海道の開拓</li> </ul>			◎近代産業の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・殖産興業政策</li> <li>・貨幣制度と金融制度</li> <li>・郵便、電信、鉄道</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・官営工場</li> <li>・国立銀行</li> </ul>	北海道の開発(地理で) 開拓使 屯田兵	26		
・1873	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地租改正とその影響</li> </ul>			◎地租改正 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地租改正条例→金納</li> <li>・地主と小作の貧富の差</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地租改正反対の一揆</li> <li>・高い小作料(物納)</li> </ul>		27		
・1872	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文明開化</li> <li>・学制</li> <li>・太陽暦</li> <li>・生活の洋風化</li> </ul>			◎文明開化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学制発布→全国に小学校</li> <li>・高等教育</li> <li>・衣食住生活の変化</li> </ul> ◎近代思想 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教解禁</li> <li>・学問のすすめ</li> <li>・社会契約論のほん訳</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学制反対の一揆</li> <li>・新聞、雑誌、書籍の出版</li> </ul>				
・1872	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学問のすすめ」</li> </ul>	・福沢諭吉			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミルの自由論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福沢諭吉</li> <li>・中江兆民</li> </ul>	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶応義塾</li> <li>・同志社</li> <li>・明六社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木本昌造</li> <li>・中村正直</li> </ul>
・1874	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国会開設の意見書</li> </ul>	・板垣退助	自由民権と帝国議会 (3)	◎政府への反対 <ul style="list-style-type: none"> <li>・藩閥政治</li> <li>・民選議院設立意見書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板垣退助</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀の乱</li> <li>・敬神党(神風連)</li> </ul>	・江藤新平

◦1877	◦西南戦争	◦植木枝盛  ◦板垣退助 ◦大隈重信  ◦伊藤博文		◦不平氏族の反乱	◦西南戦争	◦西郷隆盛	29	◦秋月党	◦前原一誠
	◦自由民権運動			◎自由民権運動 ◦国会期成同盟 ◦政府国会開設約束 ◦自由党、立憲改進黨結成	◦立志社→愛国社	◦板垣退助 ◦大隈重信 開拓使官有物払い下げ事件	30	◦新聞紙条例 ◦さんぼう律 ◦集会条例 ◦明治14年の政変 ◦立憲帝政党 ◦保安条例	◦星 亨 ◦大井憲太郎 ◦松方正義 ◦福地源一郎
◦1881	◦国会開設約束 ◦自由党 ◦立憲改進黨			◎憲法の制定 ◦大日本帝国憲法 ◦内閣制度	◦立憲国家 ◦プロシア憲法 ◦枢密院 ◦制限選挙 ◦隈板内閣	◦伊藤博文 中央集権的地方自治制度	31	◦市制・町村制 ◦府県制・郡制 ◦憲政党 ◦治安警察法 ◦立憲政友会	◦黒田清輝
◦1884	◦秩父事件 ◦憲法の制定			◎議会政治の開始 ◦帝国議会、政党政治、政党内閣					
◦1889	◦大日本帝国憲法 ◦憲法の特徴								
◦1890	◦帝国議会 ◦衆議院議員選挙 ◦立憲政治								
◦1894	◦日本の朝鮮進出 ◦日清戦争とその結果		帝国主義の世界 (6)	◎帝国主義 ◦帝国主義の国々→資本主義国 ◦帝国主義の政策→植民地、市場獲得	◦アジア、アフリカの分割 ◦日本の朝鮮進出		32	◦壬午事変 ◦甲申事変 ◦天津条約	
	◦三国干渉			◎日清戦争 ◦独立党と事大党の対立 ◦東学党の乱→日清両軍衝突 ◦下関条約  ◎中国の分割 ◦三国干渉	◦欧米列強の中国進出	賠償金で軍備増強		◦モンロー宣言	◦李鴻章 ◦ジョン=ヘイ

小			中					高		
年号	事 項	人 名	単 元	重点的事項	一般的事項	関連的事項	備考	事 項	人 名	
・1904	◦ 日露の対立 ◦ 日英同盟 ◦ 日露戦争 ◦ ポーツマス条約		帝国主義の世界 (6)	・ 北清事変	◦ 清の衰え		33	◦ 義和団 ◦ 「北京議定書」  ◦ 大逆事件	◦ 内村鑑三 ◦ 桂 太郎 ◦ 西園寺公望	
				◎日露戦争 ・ 日英同盟 ・ 満州、日本海での戦い ・ ポーツマス条約	◦ セオドア＝ルーズベルト ◦ 日比谷焼き打ち事件		34			
				◎韓国併合 ・ 保護国 ・ 植民地経営	統監府、総督府 朝鮮人の反感		35			
				◎条約改正 ・ 欧化政策→鹿鳴館 ・ 治外法権の撤廃 ・ 関税自主権回復	◦ 陸奥宗光の努力 ◦ 小村寿太郎の努力		36			
・1910	◦ 韓国併合 ◦ 植民地化後の朝鮮のようす							◦ 日韓協約 ◦ 日韓併合条約 ◦ 石井ランシング協定		
・1886	◦ ノルマントン号事件							◦ 大津事件	◦ 井上馨 ◦ 青木周蔵	
・1894	◦ 治外法権撤廃							◦ 日英通商航海条約		
・1911	◦ 関税自主権回復									
・1901	◦ 官営工場の払い下げ  ◦ 近代工業の発達  ◦ 八幡製鉄所 ◦ 重工業の発達  ◦ 労働者のくらし		資本主義の発達 (4)	◎産業の育成 ・ 財政整理 ・ 日本銀行設立 ・ 官営工場の払い下げ	◦ 紙幣乱発とインフレ ◦ 増税による不景気		37		◦ 堺 利彦	
				◎産業革命 ・ 第1次産業革命（軽工業） ・ 第2次産業革命（重工業）	◦ 大陸市場の獲得 ◦ 金本位制  ◦ 八幡製鉄所	英より100年おくれる				38
				◎労働運動 ・ 社会問題の発生	◦ 労働者のざせい	足尾銅山鉱毒事件				
										◦ 工場法

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地主と小作</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働組合の結成</li> <li>・社会主義運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平民社</li> <li>・社会主義政党「社会民主党」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>と田中正道の努力</li> <li>・片山 潜</li> <li>・幸徳秋水</li> <li>・堺 利彦</li> </ul>	39	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治安警察法</li> <li>・「平民新聞」</li> <li>・日本社会党</li> </ul>	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>◎農民運動</li> <li>・小作農の増加 } 小作</li> <li>・農民組合結成 } 争議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業と工業の差</li> <li>・高い小作料</li> </ul>		40		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代文化発達</li> <li>・帝国大学</li> <li>・東京専門学校</li> <li>・義務教育の普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北里柴三郎</li> <li>・滝廉太郎</li> <li>・黒田清輝</li> </ul>	近代文化の流れ (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎教育と学問の発達</li> <li>・学校令</li> <li>・教育勅語</li> <li>・自然科学の発達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育 4 年から 6 年に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福沢諭吉</li> <li>・新島 襄</li> <li>・大隈重信</li> <li>・北里柴三郎</li> <li>・志賀 潔</li> <li>・野口英世</li> </ul>	41	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国粹保存主義</li> <li>・日本主義</li> <li>・国定教科書制度</li> <li>→おもな来日外人の業績</li> <li>→おもな自然科学者の業績</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三宅雪嶺</li> <li>・高山樗牛</li> <li>・森 有礼</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>◎近代文学と芸術</li> <li>・写実主義→ロマン主義→自然主義</li> <li>・日本美術の再認識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坪内逍遙</li> <li>・夏目漱石</li> <li>・フエノロサ</li> <li>・劇団「自由劇場」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨーロッパ文学の影響</li> <li>・尾崎紅葉</li> <li>・樋口一葉ら</li> <li>・島崎藤村・石川啄木ら</li> <li>・岡倉天心</li> <li>・小山内薫</li> </ul>	42	<ul style="list-style-type: none"> <li>→おもな文学作品</li> <li>・反自然主義</li> <li>→おもな美術作品</li> <li>・文展・帝展</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同盟国と連合国</li> </ul>		第 1 次世界大戦と戦後の世界 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎列強の対立</li> <li>・三国協商と三国同盟</li> <li>・三 C 政策と三 B 政策</li> <li>・バルカン問題</li> <li>◎第 1 次世界大戦</li> <li>・サラエボ事件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパの火薬庫</li> <li>・日本連合国側につく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日英同盟のよしみ</li> </ul>			

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点的事項	一般的事項	関連的事項	備考	事 項	人 名
・1915	・ルシタニア号事件		第1次 世界大 戦と戦 後の世 界 (5)	・同盟国側と連 合国側の戦い	・アメリカがドイ ツへ宣戦		43	・シベリア出兵	・寺内正毅
				◎ロシア革命 ・3月革命と11月革命 ・ソビエト社会主義 共和国の成立	・皇帝の専制政治 ・レーニン		44		
・1911	・革命によって 中華民国成立 ・中国に要求をつ きつける			◎中国革命 ・孫文と三民主義 ・辛亥革命 ・21か条の要求 ・五・四運動	・清朝による専制 政治 ・袁世凱	三・一事件(万歳事件)	45		
				◎ベルサイユ条約 ・パリ平和会議 ・戦勝国本位の ベルサイユ条約 ・民族自決主義	・日本の権益 ・ポーランド、チェ コスロバキア、ユ ーコスラビア独立	・西園寺公望 アジアの民族運動 とガンジー	46		
	・国際連盟			◎国際協調 ・国際連盟の成立 ・ワシントン会 議とロンドン 会議 ・不戦条約	・ウイルソンの14 条の原則 ・四か国条約と日 英同盟廃止 ・九か国条約		47		
				◎民主主義の発展 ・ワイマール憲法 ・米・英で普通選挙 ・スターリンの 五か年計画	・英でマクドナル ド労働党内閣		48	・海軍軍縮条約 ・幣原外交	・幣原喜重郎

・1918	・大戦中の日本のようす ・米騒動 ・成金 ・ストライキ ・労働組合 ・農民組合 ・全国水平社 ・関東大震災 ・大戦後の不景気	・原 敬  ・尾崎行雄 ・犬養 毅	日本の発展(3)	◎大正時代の日本経済 ・大戦中の好景気と成金 ・大戦後の不景気と社会運動	・米騒動 ・関東大震災 ・労働争議、小作争議	49	・桂園時代 ・工場法	
	◎大正デモクラシー ・護憲運動 ・民本主義 ・政党内閣 ◎大正デモクラシー ・普通選挙制 ・治安維持法			・立憲政治 ・藩閥内閣、官僚内閣	・吉野作造 ・原 敬 ・加藤高明 水平社の運動 ・平塚雷鳥 ・尾崎行雄		・第一次護憲運動 ・大正政変 ・シーメンス事件 ・友愛会 ・日本農民組合 ・日本社会主義同盟 ・部落解放運動 ・第二次護憲運動 ・護憲三派	
	◎市民文化の成長 ・自由教育と軍事教練 ・文芸、白樺派、新思潮派、プロレタリア文学 ・生活の近代化				・本多光太郎 ・志賀直哉 ・芥川龍之介 ・小林多喜二 ・安井曾太郎 ・梅原龍三郎 ・小山内 薫		→おもな文学作品	
・1925	・政党政治 ・政党内閣  ・普通選挙運動 ・選挙法改正 ・選挙権の拡大 ・社会主義運動をとりしめる法律		日本のゆきづまり(4)	◎ファシズムの出現 ・世界恐慌	・ニューティール政策	51		

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点的事項	一般的事項	関連的事項	備考	事 項	人 名
・1929       ・1931   ・1932 ・1936   ・1937	・アメリカの不景気 ・財閥 ・農村と不景気  ・不景気対策と中国進出 ・満州事変 ・国際連盟脱退 ・五・一五事件 ・二・二六事件  ・日中戦争		日本のゆきづまり(4)	・ムッソリーニとヒトラーの独裁政治	・ファシスト党、ナチス		52	・山東出兵 ・柳条溝事件 ・上海事変	・浜口雄幸 ・田中義一  ・張作霖 ・溥儀 ・松岡洋右 ・斎藤 実 ・岡田啓介 ・北 一輝
				◎昭和恐慌 ・金融恐慌 ・ダンピング輸出失敗 ・財閥の成長	・三井、三菱、住友、安田 ・財閥と政党の結合	世界恐慌の波及	53		
				◎軍部の台頭 ・満州事変→満州国の建国 ・国際連盟脱退 ◎軍部の政治干渉 ・五・一五事件 ・二・二六事件	・蒋介石の北伐  ・国家主義傾向強まる ・天皇機関説	・犬養 毅	54		
				◎中国への進出 ・国共合作 ・日華事変 ・国家総動員法	・毛 沢 東 ・抗日民族統一戦線	・近衛文麿 大政翼賛会 大日本産業報国会	55		
				◎中国への進出 ・国共合作 ・日華事変 ・国家総動員法	・毛 沢 東 ・抗日民族統一戦線	・近衛文麿 大政翼賛会 大日本産業報国会	55		
・1939	・第2次世界大戦  ・連合国側と同盟国例		第2次世界大戦 (4)	◎大戦の開始 ・ベルリン・ローマ枢軸 ・日独伊三国防共協定 ・ドイツのポーランド攻撃	・ファシズム体制 ・独ソ不可侵条約	・チャーチル	56	・ろ溝橋事件	



1941	太平洋戦争開始  日独伊の同盟			◎太平洋戦争(1) ・日本の南進 ・日独伊三国軍事同盟 ・真珠湾攻撃	・A B C D 包囲陣 ・日ソ中立条約 ・東条内閣		57	・大東亜共栄圏 ・翼賛選挙 ・日米交渉	・東条英機
	パールハーバー 戦いのようす 戦争下の国民の生活			◎太平洋戦争(2) ・アメリカの反撃 ・本土空襲 ・戦時下の国民生活	・学徒出陣、学徒動員		58	・大東亜会議	
	1945			◎大戦の終結 ・ドイツの降伏 ・原子爆弾 ・ポツダム宣言受諾	・ヤルタ会談 ・ポツダム会談 ・ソ連の参戦		59	・カイロ宣言	・小磯国昭 ・米内光政 ・鈴木貫太郎
	占領下の日本  男女平等の選挙	日本の民主化 (4)		◎政治の改革 ・軍国主義除去 ・天皇の「人間宣言」 ・男女平等の普通選挙	・連合国軍の占領管理 ・マッカーサー		60	・極東委員会	・東久邇宮稔彦王 ・幣原喜重郎
	経済の改革 農地改革 財閥解体 労働組合 教育制度の改革			◎経済の改革 ・農地改革 ・財閥解体 ◎社会の改革 ・労働者保護立法 ・6・3制教育	・教育基本法		61	・第一次農地改革 ・第二次農地改革 ・独占禁止法 ・過度経済力集中排除法 ・金融緊急措置令 ・経済安定九原則 ・教育委員会	・ドッジ ・シャウプ ・湯川秀樹
	国民の生活のようす			◎戦後の国民生活 ・深刻な食糧難					

小			中					高	
年号	事 項	人 名	単 元	重点的事項	一般的事項	関連的事項	備考	事 項	人 名
◦1946	◦日本国憲法		日本の民主化 (4)	・激しいインフレ ◎憲法の改正 ・日本国憲法の公布 ・地方自治の改革	◦日本国憲法の三大原則		62  63	◦政党復活 ◦民法改正 ◦地方自治法	◦片山 哲 ◦芦田 均
◦1945  ◦1948 ◦1949 ◦1950  ◦1951 ◦1956	◦国際連合  ◦冷たい戦争  ◦大韓民国 ◦朝鮮民主主義人民共和国 ◦中華人民共和国 ◦朝鮮戦争  ◦サンフランシスコ講和会議 ◦平和条約 ◦日米安保条約 ◦日ソ共同宣言	◦吉田 茂	二つの世界と日本の独立(2)	◎平和のとりで ・国際連合の成立 ◎米・ソの対立 ・冷たい戦争 ◎アジアの形勢 ・植民地の独立 ・中華人民共和国の成立  ◎朝鮮戦争 ◎日本の独立 ・サンフランシスコ平和条約 ・日米安全保障条約 ◎国際社会への復帰 ・日ソ共同宣言 ・国際連合への加盟	◦北大西洋条約機構(NATO) ◦ワルシャワ条約 ◦インドシナ戦争  ◦日本の特需景気 ◦警察予備隊→自衛隊  ◦日米行政協定	二つのドイツ ・ホーチミン   ・吉田 茂	64  65	◦マーシャル・プラン ◦水爆実験 ◦大陸間弾道弾 ◦SEATO ◦スエズ動乱  ◦MSA協定	◦鳩山一郎
			多元化する世界と安保闘争 (2)	◎世界の雪どけ ・平和共存 ◎核戦争の恐怖 ・部分的核実験禁止条約 ◎世界の多元化  ◎第三世界の形成	◦四大国巨頭会談 ◦キューバ危機 ◦核拡散防止条約 ◦東ヨーロッパの自由化 ◦ヨーロッパ共同体(EC)	・フルシチョフ  ・ド・ゴール		◦インドシナ休戦協定 ◦ジュネーブ四巨頭会談	

◦1960	◦ 安保闘争			・アジア・アフリカ会議	◦ アフリカの年 ◦ 南北問題	66	◦ 平和五原則	◦ ネール ◦ 周恩来 ◦ 石橋湛山 ◦ 岸 信介  ◦ 池田勇人
				◎安保闘争 ・条約の改定 ・条約の承認 ◎経済の発展 ・高度成長政策  ・しのびよる公害	◦ 日米相互協力 および 安全保障条約  ◦ 技術革新 ◦ 国民総生産第2位 ・貿易の自由化 ◦ 過疎過密 ◦ 四大公害裁判	67		
◦1968 ◦1972 ◦1972 ◦1978	◦ 小笠原諸島返還 ◦ 沖縄諸島返還 ◦ 日中共同声明 ◦ 日中平和友好条約		ゆれ動く世界 (2)	◎ベトナムの動き ・ベトナム戦争 ◎中東の動き ◎米中の接近 ◎ゆらぐ世界経済	◦ ベトナム社会主義共和国 ◦ 中ソの対立 ◦ 石油ショック ◦ 国際収支の大巾黒字と円高	68	◦ ベトナム和平協定	◦ 佐藤栄作 ◦ 朴 正熙 ◦ 田中角栄 ◦ 三木武夫 ◦ 福田赳夫 ◦ 大平正芳 ◦ 鈴木善幸
				◎日本の外交 ・北方領土の問題 ・日中共同声明 ・日中平和友好条約  ◎現代の文化 ・戦後の文化の復興 ・文化の特色 ◎現代の課題 ・日本の課題 ・世界の課題	◦ 200海里問題  ◦ 日韓基本条約  ・湯川秀樹 ・朝永振一郎 ・川端康成	69		